



横町通りの木山神宮横に新店舗を構えた岡本商店



駄菓子のコーナーが人気の店内



「プリンと駄菓子とお酒。かつての岡本商店と変わりません」と頑張る矢野さん夫婦



上/名物のプリン。プレーン、コーヒー、ごま風味の3種類

左/パパと自転車でお店にやって来た平田茉緒ちゃん(左)とお姉ちゃんの和佳菜ちゃん

つたのは12年前からです。地震で全壊した福富の店の中で、プリンを焼くオーブンだけが奇跡的に無事だったんです。神様が『あきらめるな』と言ってくれてるようで、涙が出ました」と話すのは、店主の矢野好治さん(53)です。地震後、矢野さんと妻の祐子さん(51)はテックノ仮設団地内の「益城テクノ笑店街7」に店舗を構え、そこを拠点に移動販売などを続けてきました。そして県道熊本高森線の道路拡張に伴い福富を離れ、木山に移って再々

## 子どもたちの第3の居場所

スタートを切りました。新店には子ども連れのお客さんも目立ちます。お目当ては駄菓子。町内に住む平田和佳菜ちゃん(6)と妹の茉緒ちゃん(4)もパパと一緒に来店し、お菓子選びに夢中です。「子どもたちが安らぐ場所でありたい」と、愛らしい来客を見守る矢野さん夫婦の優しい笑顔が印象的でした。

岡本商店の向かい側にあるのが、町のコワーキングスペース「Connet」。コワーキングスペースとは、勉強や仕



岡本商店の向かい側にあるコワーキングスペース「Connet」



木の温もりが優しいコネットの室内



スタッフとして頑張っている西さん(左)と坂本さん

事などを「一つの空間で一緒に行う場所」のことで。コネットにもみんなが宿題をする子どもたちやオンライン会議をする会社員、資格取得の勉強をする高齢者などいろんな利用者が集まっています。

運営するのは「(株)未来創成まじき」。大学生スタッフが常駐しており、県立大学の坂本昂陽さん(20)もその一人です。「コネットでも、放課後学習会を開く予定です」と坂本さん。仲間の学生に呼びかけ、町内の中高生に無料で勉強を教える活動をコネットでも行う予定とのこと。

すでに母校の益城中で、テスト前に中学生に勉強を教える活動を行っている坂本さん。この活動に熱心に取り組む背景には、熊本地震の時に受けたサポートへの感謝があります。熊本地

震の時、中学3年生だった坂本さんは、「あの時、NPO法人『カタリバ』の方々が、放課後に学習支援をしてくれたり、私たちの心身のダメージのケアをしてくださいました」と振り返ります。

坂本さんと同じ大学に通う西奈さん(19)も、「以前から、町に学習スペースができてほしいと思っていました。この運営に関わらせてもらい、うれしいです」と話します。西さんは、役場仮設庁舎近くの「益城食堂」でも働く頑張り屋さんです。

「子どもたちにとっての『第3の居場所』でありたいと思っています。大人の人たちにも顔を出してもらい、子どもたちの姿を見守ってほしいですね」と、坂本さんたちはキラキラとした笑顔を見せてくれました。